

■ 7月29日

日隆(3,200m)～老牛園子(3,800m)

〈騎馬〉 快晴、午後一時雷雨

長坪溝に向かう本隊と別れ、リーダーの李さん以下我ら7人は大姑娘山に向かう。

四姑娘山登山基地・日隆に来て3日、初日の巴郎山(4,500m)、昨日の夾金山(4,100m)と高地順化を兼ねた散策はしてきたが、やはり緩慢な行動でも息切れる高所の登山なので全員アルコールと無縁の旅。

山での不要品を宿に残し、主要装備等はご当地宅配便(馬便)に託し、ザックには雨具や昼食ほかの身軽な出で立ちで出発(9:30)。花海子入口で入山手続き、尾根の

山道を10分ほど登ると馬立場、李さんが馬を割り振りし、乗り方を説明しているのに勝手に出発。殆どの人は馬の経験があり悠然と乗っているが、初めての私は何ともぎこちない。30分ほどで鍋庄坪、やれやれ!

鍋庄坪は大姑娘山のビューポイントか通常の観光客も多く小綺麗なトイレやゴミ入れもあり道も整備されている。ここで改めて李さんから馬の乗り方の指導、「登りは前傾、下りは後傾」といわれてもそこまで気が回らない。

樹林の狭い道に入り暫くしてひらけたエーデルワイスの群落で昼食(11:30)。樹林が次第に深くなり、狭い道に馬が掘込んだ溝が深くなるあたりで休憩(12:35)。ここが最後の常設トイレ(評判はよくない)。

道路の溝はますます深く雨でのぬかるみが思いやられる。我々も準備段階で長靴を用意すべきか悩んだが、四姑娘山自然保護区管理局の大川さんの現地情報と今日の行程を騎馬に変更したので雨でも長靴不要としたが、徒歩でぬかるみを歩くのはたいへんだらう。

あぶみを両側の段差にこすり付けそうに深く掘られた溝を登ること35分、勾配が次第にゆるくなり突然前方が



ひらけると眼下の海子溝の草原に黄色いテント群、今日のキャンプサイト老牛園子である。

S氏によると去年はテントサイトの近くまで海子となっていたとのこと、天気続きで水は少ないのか? ここで馬を下りキャンプへ。馬から離れられてやれやれ!(13:50)。

日隆からは尾根を超え隣の谷へ来たことになる。

このキャンプはシーズン中は常設のようで24時間運転の簡易水力発電も備え、調理・食堂・男女別&従業員別のトイレのテントがあり、宿泊テントは3人用ドーム型が約20張りに7～8人ほどのスタッフと充実している。加えて5人以上のスタッフが食事その他の世話に当たりおかげで山での食事もなかなかよかった。

キャンプの利用者は我々の他に程なく降りてきた、大姑娘山に今日登山した関西からのパーティのみ。このキャンプと高所キャンプは我々の利用を最後に撤収という。今シーズンは終わりということか!

既に託送荷物は到着、テントの割り振り(3人用に2人で余裕)をして、食堂テントに用意されたお紅茶やハミウリなどでティータイム、何と空色の民族衣装のよく似合う可愛いウェイトレス達が給仕、当地のチベット人には美人が多いと聞いていたが微笑みを絶やさぬ明るい瞳と白い歯はまさに明眸皓齒。

くつろいでいるとにわか雷鳴、大急ぎ各自のテントと避難したが風と共にパラパラ程度で通過、今回の旅唯一の雷雨はあつげなかった。

高所ガイドの明銘^{ミンミン}さんも到着、彼は日隆での我々の宿舎・日月山荘の長男で来春には日本に留学に来る。夕食には時間があるので高地順化も兼ねキャンプ地の上部を散策、草原や岩陰にはとりどりに花盛り。

富士山より高い老牛園子は寒いと聞いてはいたが、明日はさらに高地のキャンプなので今夜はテ



老牛園子のキャンプ地



スト。薄手のシュラフ(羽毛)だけで寝たが23時過ぎに寒さで目覚め、ゴアのシュラフカバーを重ねても0時過ぎに目覚め、タイツや下着の着用は面倒なので合羽上下を着用したが腿の上側からの冷えが気になった。明晩は全て着込んで後は辛抱か!

夜明け前に起きたときはトイレへの通路の丸太橋に霜。なるほど寒いわけだ。

■7月30日 老牛園子(3,800m)～高所キャンプ(4,500m)

快晴

朝食も美味しく全員まずまずのコンディション。高所キャンプへの荷物をご当地宅配便に依頼し、ガイドの明銘さんを先頭、李さんがしんがりで出発(9:00)。さらにキャンプのスタッフも加わり大部隊。ここまでほとんど歩いて

こなかったで、今日からが登山。高低差700mが明日を窺ういわば試運転、ガイドの明銘さんはゆっくりした歩調で最初の休憩まで30分、隊列が伸びるのをみてかその後は15～20分ごとの小休止、一步ごとに広げる後方視界と様々な花は心を和ませてくれる。

豊富な高山植物に比べ、動物はヤクなどの家畜以外はハクビシンの死骸を見たのみ。呼吸を意識しながら登る我々と対照的にチベット人スタッフ達は談笑しながら! 彼らにとっては村の坂道に行くようなものかもしれない。正面上方のエンドモレーン上に高所キャンプの旗が見えるあたり(4,400m)で昼食(12:01)。

カールの底に入り左に小さな流れを見るように登るとキャンプサイト下の馬立場。李さんが明日の馬の手配の確認をして一登り(13:45)。

キャンプサイトは小さな崖の上に岩石を積み残したような二段のエンドモレーンでそれぞれの台地がキャンプサイトとなっている。我々は下段を利用。

上段は別の組織で運営のようだが今日は来客なしの様子。ここもシーズン中、常設で炊事・食堂・男女別トイレのテントがあり、なかでもトイレの用便後の砂かけは絶妙。宿泊テントは3人用ドーム型が5張り程。

届いている荷物を確認し、食堂テントで紅茶とハミウリのティーパーティ。ハミウリも山では一段と美味しい。今夜は松茸がでるとの情報に一同わき上がる。テントの割り振りをして各自整理。昨夜はしっかり着込まず寒さで安眠できなかったが今夜は毛布のオーバー寝袋を全員に貸してくれた。これで防寒は一安心!! 夕食はここでも豊富、待望の松茸を見つけて箸を付けた人達の怪訝な顔! 何とニンニクと松茸のバター炒め、確かに松茸の香りはするもののニンニに負けている。みんなの落胆や如何ばかり、すっかり箸が遠のいてしまった。以前雲南で「臭いキノコ」と言われていたのを思い出す。ここでも香りはあまり珍重されないのかと改めて食べてみると歯触りや味には独特のものがあ、私には結構美味しい。おかげでもう一膳食事が進んだ。

食後は例により高地順化も含めた上部散策、このあたりも高山植物の種類は多い。



高所キャンプ地のティータイム



目指すはあの頂き

早めに就寝、明朝に備える。標高が上がり視界が開けた分一段と星空が綺麗。

オーバーシュラフに加えTさんから分けてもらったホカロン？を足先に入れたので終夜ホッカホカ。

■7月31日 高所キャンプ(4,500m)～大姑娘山(5,025m)
～日隆 快晴、午後一時曇り

いよいよ山頂アタックの日。その後一気に日隆の宿まで

長駆(まさに馬だけ)なので早立ち(6:25)。今日は各自に一人のポーターが付く、こんな殿様登山をしたことのない庶民は戸惑いながらもなにか晴れがましい。ポーター達は食事その他の世話をしてくれたスタッフ達、もちろん民族衣装の美少女達も！今回の山行は全員満足だったがここに来て「至れり尽くせり」を実感。

いよいよ未経験の高度への挑戦。前日の歩調から李さん

は最強のオーダーを編成して出発。昨夜は不調気味だったSさんも好調。先頭に行くガイド明銘さんは谷沿いにコルを目指してゆっくりと10分～15分ごとに休憩を入れて登る。谷が狭まり最後の急傾斜を登るとコルだ(7:50)。

景色は一変して眼前に雪をまとう主峰四姑娘山が屹立、眼下の日隆から彼方にはこの四姑娘山群なみの高峰の連なりが望める。しかし、それらの高峰すら当地では著名な山ではないという。ここから左に四姑娘山を見ながらはほぼ稜線左沿いに登る。僅かに残る雪田をかすめややきつい斜面を登りきると大姑娘山頂だ。(9:10)。

山頂は360度の展望。期待のミニヤコンカは望めなかったが、折から二姑娘山登攀をライブで遠望、好天に恵まれ撮影・スケッチ・水や食事と各自のんびり過ごすこと50分、全員で記念撮影をして山頂を後にした。(10:00)。

鞍部に戻るとキャンプ地は直下、上部の急斜面を慎重に下り2回の休憩でキャンプに帰着(11:30)。

ひとまずお茶、そして昼食は特別に中国のカップ麺、食後に各自の荷物をまとめて託送依頼し、下山開始(14:09)。

下山は恐怖の馬でだ。しかし、乗ってみると一昨日の経験で馴染んだか多少かたさもとれたようで景色も多少目に入る。今日は日隆に直接くだるので途中から右手の尾根にトラバースする。馬も下りは早く一昨日の最終トイレで下の道に合流(15:15)。登りは見る余裕もなかった仏塔を樹幹に見ながら鍋庄坪(16:35)まで下ると沢山の観光客。ここまでが一般向けの観光地となっている様子。山にカメラを向けている人も多いが今日は雲が出て四姑娘山は見えない。つくづく我らの好天に恵まれたことを感謝しつつ山を後にした。

今回は天候に恵まれ、それぞれ新しい体験をしながらも予定通りのコース・日程で順調に登山ができた。緻密な計画をたてて下さった大川さん、現地での手配や折衝・適切な指示を与えてくれた李さん、高所ガイドの明銘さんそして親切な現地スタッフのみなさんに感謝しお礼申し上げます。

この3枚は佐々木真理子撮影

